

令和 6 年度

シラバス（専門教科）

～生活情報科 3 年～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

生活情報科 3 年 専門教科

生活コース

課題研究	P 1
生活産業情報	P 2
服飾手芸	P 4
フードデザイン	P 6

情報コース

課題研究	P 8
総合実践	P 10
ビジネス・コミュニケーション	P 12
観光ビジネス	P 14
ソフトウェア活用	P 17

課題研究	単位数	4単位
	学科・学年・学級	生活情報科・3学年・生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	生活産業の各分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決能力や自発的・創造的な学習態度を身につける。
使用教科書・副教材等	

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい
	1 オリエンテーション 2 各自で研究に取組む。 「食物」 • 家庭科技検定1級取得 • 自由研究 「被服」 • 自由作品の製作 • 文化祭でのステージ発表 「家庭科研究・茶道」 • 茶道、着付けに関する知識、技術の習得 • 家庭科に関する研究	4	<ul style="list-style-type: none"> 「食物」「被服製作」「家庭科研究・茶道」の3つの講座に分かれて各自課題をみつけ、研究テーマを決める。 家庭科に関する各科目の学習で身につけた専門的な知識と技術を駆使し、課題を解決するために主体的に行動する力を身につける。 問題解決のため、計画的に学習活動を進める力を身につける。 研究内容をまとめて、レポートを作成しプロジェクターを使用し、発表することで、自分の考えを他者に伝える力を身につける。
	3 課題研究発表会	1	

【各学期の評点方法】

学習活動への参加の仕方や態度、ファイルの記入状況、検定への取組状況、作品の出来映え、学習の進捗状況等を総合して成績を出します

【年間の学習状況からの評価方法】

3つの観点から評価した第1学期の成績、第2学期の成績、第3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	生活産業の各分野に関する専門的な知識を習得している。	<ul style="list-style-type: none"> 課題や作品 ファイル
思考・判断・表現	設定した課題解決のため、これまで学習した専門的な知識を生かした方法を考え選択及び実践することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 課題や作品 ファイル
主体的に学習に取り組む態度	生活産業に関する各分野について興味・関心をもち、授業に積極的に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加の仕方や態度 出席状況

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	これまでの学習の深化を図るよう、知識や技術を活用しながらテーマに沿って研究を進めていきましょう。
授業を受けるに当たって守つてほしい事項	忘れ物をしないように注意し、授業や実習に集中して取り組みましょう。
その他	自分が設定した研究テーマの目標を定めて、計画を立て、主体的に進めていきましょう。

生活産業情報	単位数	3単位
	学科・学年・学級	生活情報科・3学年・生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 2年次履修した「生活産業情報」の基本的内容を踏まえ、発展的な情報処理に関する技術を身につける。 衣食住、ヒューマンサービスなどの各分野における生活産業の内容や職業への関心を高める。 生活産業や関連する職業に必要な知識と技術を進んで習得し、職業人として活用できる知識と技術を身につける。
使用教科書・副教材等	生活産業情報（実教出版） 日本情報処理検定協会主催問題集

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい 評価基準	備考 (学習活動の特記事項他)	考查範囲
第1学期	第1章 情報化の進展と生活産業 第2章 情報モラルとセキュリティ	4 5	<ul style="list-style-type: none"> 経済や科学技術等の発展に伴う産業構造の変化を理解する。 ネットワーク社会における危険性や問題点を理解し、適切な情報発信ができるようになる。 		中間 考查
1 学 期	第6章 情報の処理・分析・発信 (1) ワープロソフト利用 第3章 コンピュータとプログラミング (1) コンピュータの基本構成 (2) モデル化とシミュレーション (3) アルゴリズムとフローチャート	6 7	<ul style="list-style-type: none"> 文書作成を効率よく行うことができるようになる。 コンピュータの基本構成について理解する。 アルゴリズムの表現方法とプログラミングに関する基礎的・基本的な知識や技術を習得する。 	文書デザイン検定	期末 考查
	【課題・提出物等】 問題集から文書を作成し提出する。				
	【第1学期 の評点方法】 定期考査の得点（中間考査・期末考査）、学習活動への参加の仕方や態度、提出物等を総合して成績を出します。				
第2学期	第5章 アプリケーションの基本操作 表計算ソフト利用 プレゼンテーションソフトの利用	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトを用いて、データベースの作成や処理方法を理解し、技術と知識を身につける。 文書作成ソフトを用いて文書作成の方法を理解し、技術と知識を身につける。 プレゼンテーションソフトを用いて、自分の持っている情報を他人へわかりやすく正確に伝えられるプレゼンテーション技術を身につける。 	日本語ワープロ検定	中間 考查 期末 考查

第 3 学 期	【課題・提出物等】 表計算問題、自作のプレゼンテーション							
	【第2学期 の評点方法】 定期考査の得点（中間考査・期末考査）、学習活動への参加の仕方や態度、提出物等を総合して成績を出します。							
	第7章 生活産業に関連した情報デザイン	1	・家庭に関する学科に関連した産業の種類や特徴、関連する職業について理解する。	卒業考査				
	【課題・提出物等】 ファイル							
【第3学期 の評点方法】 定期考査の得点（卒業考査）、学習活動への参加の仕方や態度、提出物等を総合して成績を出します。								
【年間の学習状況からの評価方法】 3つの観点から評価した第1学期の成績、第2学期の成績、第3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。								

(2)評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	生活産業情報に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業で使用するプリント
思考・判断・表現	情報収集や活用における基本的な知識を身に付け、それらを実生活のなかで活用することができている。 生活産業の各分野において、生活の質の向上につながる商品やサービスを提案したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 実習における作業の状況 定期考査 授業で使用するプリント 課題のまとめの仕方
主体的に学習に取り組む態度	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し意欲的に活用しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加の仕方や態度 実習への参加状況 課題に対する取り組み 授業で使用するプリント

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> キーボードを見ずにタッチができるように意識しながら実習に取り組みましょう。 学習内容の到達目標として文書デザイン検定の2級または1級受験に挑戦しましょう。
授業を受けるに当たって守つてほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業に遅れないこと。 忘れ物をしないこと。 わからないことは積極的に質問すること。
その他	パソコンを使って文書作成やデータ処理など、基本的なソフトの使い方をしっかりと身につけましょう。また、プレゼンテーションソフトを使って作成し発表することをおして、表現方法を学びましょう。

服飾手芸	单 位 数	4 单 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を身につける。
使用教科書・副教材等	副教材：家庭科問題集 被服編（全国高等学校家庭科教育振興会） 準教科書：文化ファッション大系服飾関連専門講座8 手芸（文化出版局）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい 評価基準	備考 (学習活動の特記 事項他)	考 查 範 囲
第 1 学 期	1 手芸の種類と特徴 【 基本作品製作1 】 2 色相環と配色 【 自由作品製作1 】	4 5	刺しゅう、編み物、染色、織物及びその他の手芸の起源から現在に至るまでの変遷を理解する。 【 基本作品製作1 】 手芸の技法を用いて、基本的な製作方法を身に付ける。		期末考査
【課題・提出物等】					
基本作品製作1, 自由作品製作1					
【第1学期の評価方法】					
定期考査の得点（期末考査）、学習活動への参加の仕方や態度、作品等を総合して成績を出します。					
	2 手芸の変遷 【 基本作品製作2 】 【 自由作品製作2 】 3 服飾材料としての各種手芸の技法 【 基本作品製作3 】 【 自由作品製作3 】 【 卒業製作 】	9 10 11 12	手芸の変遷について学び、文化の変遷について考える。 【 基本作品製作2 】 手芸の技法を用いて、基本的な製作方法を身に付ける。 【 自由作品製作2 】 基本製作で学んだ技法を生かしながら、各自のデザインによる製作をする。 【 基本作品製作3 】 手芸の技法を用いて、基本的な製作方法を身に付ける。 【 自由作品製作3 】 基本製作で学んだ技法を生かしながら、各自のデザインによる製作をする。 様々な手芸技法について学び、学んだ手芸技法を使った作品を製作することで、技術の深化を図る。		期末考査

	<p>【課題・提出物等】 基本作品製作2・3、自由作品製作2・3</p> <p>【第2学期の評価方法】 定期考查の得点（期末考查）、学習活動への参加の仕方や態度、作品等を総合して成績を出します。</p>				
3 学 期	【卒業製作】	1	様々な手芸技法について学び、学んだ手芸技法を使った作品を製作することで、技術の深化を図る。		卒業 考 査
	【課題・提出物等】 卒業製作				
	【第3学期の評点方法】 定期考查の得点（期末考查）、学習活動への参加の仕方や態度、作品等を総合して成績を出します。				
<p>【年間の学習状況の評価方法】 3つの観点から評価した第1学期の成績、第2学期の成績、第3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。</p>					

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	服飾手芸に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解している。	定期考查
思考・判断・表現	服飾手芸についての基本的な知識を身に付け、よりよい作品完成に向けて工夫し、その方法を選択することができる。 服飾手芸の充実向上を図るために実践的な技能の習得ができている。	課題や作品
主体的に学習に取り組む態度	服飾手芸について興味・関心をもち、授業に積極的に取り組んでいる。	学習活動への取組や態度 出席状況

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	1. 2年次に学習したファッショントレンドの基礎知識や技術を活用しながら、積極的に実習に取り組みましょう。 細かい作業にも丁寧に取り組み、技術の向上を目指しましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	毎時間の実習の見通しをもって取り組みましょう。 作品は必ず完成させ、提出しましょう。
その他	まずは、基本的な製作方法を学習します。その知識や技術をもとに、自分なりの作品の製作を手掛けます。自由な発想で、想像力を膨らませながら製作に取り組んでいきましょう。

フードデザイン	単位数	2単位
	学科・学年・学級	生活情報科 第3学年・生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得する。 食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。 食生活の充実・向上を目指して、自ら実践する能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	フードデザイン（実教出版） フードデザインワークノート（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい 評価基準	備考 (学習活動の特記事項他)	検査範囲
第1学期	第3章 調理と献立 6 テーブルコーディネート (3)西洋のコーディネート 第2章 栄養素・食品の特徴 3 食品の特徴 (1)牛乳・乳製品 (2)卵 (3)魚介類 (4)肉類(5)豆類 (6)野菜類(7)きのこ類 (8)海藻類 (9)種実類 (10)果物類 (11)いも・でんぷん(12)穀類 (13)油脂類 (14)寒天・ゼラチン (15)調味料・香辛料 (16)し好食品 (17)その他 【課題・提出物等】 ・調理実習記録(ノート) ・中間考査、期末考査の訂正ノート ・ノート、ファイル(学期末) 【第1学期の評価方法】 実習への参加状況、実習中の態度、定期考査の得点、提出物等を総合的に判断して評価します。	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 食べる人に配慮したサービス方法とマナーを身につける。 日常よく使用される食品の特徴とその成分、調理上の性質及び調理による成分の変化などについて知り、その効果を考える。 食品を調理する目的を知る。 健康食品やインスタント食品などの食品について正しい知識を身につける。 特別の保健効果が期待できる保健機能食品について理解する。 	○調理実習 ・日本料理 ・西洋料理 ・中国料理	中間考査 期末考査
第2学期	4 食品加工の目的 (1)安全性の向上 (2)栄養性の向上 (3)おいしさの向上 第3章 調理と献立 1 調理の基本 (1)調理の目的 (2)食べ物のおいしさ (3)調理操作 2 ライフステージと食事計画 (1)食事摂取基準 (2)食事バランスガイド (3)ライフステージと栄養 3 献立作成 (1)献立作成の留意点 (2)献立作成 4 様式別の献立と調理・食卓作法 (1)日本料理	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある加工食品を知り、目的を理解する。 食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について理解し、適切な選択ができるようにする。 家庭でできる加工食品を作つてみることにより、加工食品についての理解を深める。 食物の味は食品に含まれる成分だけではなく、さまざまな要因に影響されることを理解する。 非加熱操作の種類を知り、食品ごとに操作方法が異なることを理解する。 調理用具の使い方について理解し、日常的な調理ができるための基本的な調理技術を身につける。 日本人の食事摂取基準について知るとともに、食事と運動とのかかわり、年齢やライフステージに応じた栄養摂取の在り方を理解する。 献立を作成するための留意点を理解する。 望ましい献立作成ができる能力を養い、調理 	○調理実習 ・郷土料理 ・テーマ調理（献立作成）	中間考査 期末考査

	(2)西洋料理 (3)中国料理 (4)各料理のマナーと基本的なサービスの方法 5 食文化を見つめる (1)食と生活のかかわり		実習を通して全体のバランスや予算、時間配分まで自分たちで考える力を身につける。 ・ 様式別の食卓構成、作法を理解する。 ・ 様式に適した献立作成や調理をする能力を養う。 ・ 様式ごとに特徴や食卓構成、作法、実際に調理実習で作った献立などを自分でまとめることにより、より理解を深める。 ・ 日本各地の様々な郷土料理について知る。		
【課題・提出物】 ・調理実習記録(ノート) ・中間考査、期末考査の訂正ノート ・ノート、ファイル(学期末)					
【第2学期の評価方法】 実習への参加状況、実習中の態度、定期考査の得点、提出物等を総合的に判断して評価します。					
第3学期	第3章 調理と献立 6 テーブルコーディネート (1)楽しい食卓をつくろう (2)日本料理のテーブルコーディネート	1 2 3	・ テーブルコーディネートの基本事項を踏まえ、食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境づくりができる技術を身につける。	○調理実習 ・中国料理 ・自由調理(献立作成)	学年 末 考 査
	【課題・提出物等】 ・調理実習記録(ノート) ・学年末考査の訂正ノート ・ノート、ファイル(学期末)				
	【第3学期の評点方法】 実習への参加状況、実習中の態度、定期考査の得点、提出物等を総合的に判断して評価します。				
【年間の学習状況の評価方法】 1年間を通しての実習への参加状況、実習中の態度、定期考査の得点、提出物等を総合的に判断して評価します。					

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・食生活に関する基礎的、基本的な知識を身につけているか。 ・日常の食事作りに関する基礎的、基本的な技能を身につけるとともに、テーマに合わせた食事の献立が作成できるか。	・ 定期考査 ・ 授業で使用するプリント ・ 献立作成 ・ 実習における作業の状況
思考・判断・表現	・食生活について見直し、問題点を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけているか。	・ 定期考査 ・ 授業で使用するプリント ・ 発言や発表の仕方と態度
主体的に学習に取り組む態度	・食生活に関して興味関心を持ち、献立作成や授業、調理実習に意欲的に取り組む実践的な態度を身につけているか。	・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ 実習への参加状況 ・ 課題に対する取り組み ・ 授業で使用するプリント

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	授業の内容をしっかりと聞き、不明な点はそのままにせず質問をしましょう。 実習は事前の説明から内容をしっかりと把握しておきましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・ 授業に遅れないこと。 ・ エプロン、三角巾、マスク等の忘れ物をしないこと。 ・ 調理実習の記録、反省感想の記入は忘れずに行うこと。
その他	実習が多い科目です、忘れ物をしないように気をつけましょう。授業で学んだことを、授業外でも実践できるよう、一緒に頑張りましょう。

「課題研究」	単位数	4単位
	学科・学年・学級	生活情報科 第3学年情報コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	職業資格の取得 商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育成します。
使用教科書・副教材等	生徒の興味、関心、進路に応じて課題を設定させるため各自で準備します。電卓実務検定模擬問題集・ビジネス文書実務検定試験問題集・ビジネス情報、プログラミング問題集・日商簿記問題集

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）	考查範囲
第1学期	1 「課題研究」の学習についてのガイダンス 2 各自のテーマの設定・年間計画の作成・学習内容の設定 3 発展した電卓での経営分析や複利年金などの学習 4 パソコンやプログラミングを学ぶ。 5 日商簿記2、3級の学習	4 5 6 7	・「課題研究」の内容を説明します。また、提出物の注意項、評価基準について説明します。 ・1年間に実施される職業資格を調査し、その中から取得し受けたい職業資格を選択します。その職業資格取得に向けて具体的な学習の計画を立てます。 ・フローチャート、プログラミングの理解ができるようになる。 ・電卓実務検定1級を受験対策で弱点の克服にあたります。全商簿記と日商簿記の違いを分析し、日商簿記の問題に慣れさせる。	ガイダンスをよく理解して無理のない計画を立てましょう。	中間考查
【課題・提出物等】					
1 課題研究ファイルを配布します。オリエンテーションを踏まえ年間計画表を作成し担当の先生に提出します。 2 毎時間の学習内容と、課題達成の度合いを日誌に記入し担当の先生に提出します。 3 中間報告書（A4用紙1枚程度）を作成し、担当の先生に提出します。					
【第1学期の評価方法】					
1 出席回数・日誌と月報の提出回数の合計を求めABCで判定します。日誌の内容・月報内容・授業内容で評価します 課題内容は、中間報告書とパソコンで作成した設計図とプログラミングを主体にABCで評価します。 2 5項目で評価された、ABCの組み合わせで5段階評価を実施します。出席回数・日誌と月報の提出回数の合計を求めABCで判定します。					
第2学期	・エクセルで新しい操作方法を学習する。 ・パワーポイントに操作方法やプレゼンテーションについて、発表の方法を学習する。 ・日商簿記2、3級の学習	9 10 11 12	・電卓実務検定、ビジネス文書実務検定対策、ビジネス情報実務検定、簿記実務検定について各自で目標をたてて学習していく。 ・過去問や模擬問題を学習して、弱点の克服に努める。 ・日商簿記2、3級で新しく検定に含まれる分野を学習する。 ・今まで学習してきたことをどのように発表するか準備を進めていく。 ・残りの検定に対してどのような対策をしていくか確認する。	・各検定の受験にあたり、過去の問題等も学習します。	中間考查
【課題・提出物】					
1 每時間の学習内容と、課題達成の度合いを日誌に記入し担当の先生に提出します。 2 月末には月報にその月の反省を記入し提出します。 3 使った問題集・模擬問題集はまとめて提出します。					

	【第2学期の評価方法】									
	1 出席回数・日誌と月報の提出回数の合計を求めABCで判定します。日誌の内容・月報内容・授業内容を評価します 課題内容は、中間報告書とパソコンで作成した設計図とプログラミングを主体にABCで評価します。									
	2 5項目で評価された、ABCの組み合わせで5段階評価を実施します。出席回数・日誌と月報の提出回数の合計を求めABCで判定します。									
第3学期	• 最終報告書の作成と課題研究発表会に向けて	1	• 検定の未取得や電卓実務1級、ビジネス文書実務検定1級を通して、様々な商業教科の分野とのつながりについて学習したことをまとめます。また、課題研究発表会に向けての準備も行います。		報告書は資格取得の過程だけにこだわらず、検定の学習を通して、実社会でどのように活かしていくかをまとめます。 学年末考査					
		2								
		3								
【課題・提出物等】										
1 毎時間の学習内容と、課題達成の度合いを日誌に記入し担当の先生に提出します。										
2 月末には月報にその月の反省を記入し提出します。										
3 使った問題集、はぎ取りの模擬問題集はまとめて提出します。										
4 最終報告書を作成し担当の先生に提出します。										
【第3学期の評価方法】										
1 出席回数・日誌と月報の提出回数の合計を求めABCで判定します。日誌の内容・月報内容・授業内容で評価します 課題内容は、最終報告書とパソコンで作成した設計図とプログラミングを主体にABCで評価します。										
2 5項目で評価された、ABCの組み合わせで5段階評価を実施します。出席回数・日誌と月報の提出回数の合計を求めABCで判定します。										
【年間の学習状況の評価方法】										
学習状況は、後に示した3観点から評価した1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習成績として評価します。										

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	• 自分で目標を設定して、その目標達成のための学習計画を立てて主体的に取り組むことが必要です。受け身でなく自分から進んで学ぼうとする姿勢が必要です。 •
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	• 目標設定をしっかりとし、学習計画も綿密に立てましょう。 • 自分の力で設定した目標を達成することが大切です。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	分野別学習（簿記、電卓、ビジネス文書、ビジネス情報、プログラミング）に着手できたか。	• 検定結果 • 小テスト
思考・判断・表現	資格取得の選定の際多種にわたり選定し無理な計画は立てなかつたか。また、逆に安易な計画ではなかつたか。問題解決にあたり、担当教師に積極的に質問しその指導を素直に聞き入れ、取り組んだか。	• 提出物を期限内に提出したか • 日誌、月報の内容
主体的に学習に取り組む態度	受験する資格取得の選定は自分の進路選択を踏まえてできたか。毎回欠席・遅刻なく出席し、日誌等の提出は、期限を守ったか。日誌や月報の内容は充実していたか。	• 年間計画表・出席簿・提出物を期限内に提出したか • 日誌、月報の内容

3 担当者からのメッセージ

- 4月当初のガイダンスをよく理解して、研究テーマを設定しましょう。
- 研究テーマは、中間報告書、最終報告書の作成、プレゼンテーションを念頭において、設定しましょう。
- 毎回必ず日誌を提出しましょう。欠席・公欠の場合もその旨を記入して提出しましょう。

「総合実践」	単位数	2単位
	学科・学年・学級	生活情報科 第3学年情報コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 これまで学んできた商業科目全般にわたる知識・技術・態度を総合的に学習する。そして、商業の各分野に関する知識と技術を、模擬取引などの実践的活動を通して総合的に学習し、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う能力を育てる。 2 基本的なビジネスマナーや事務文書の作成と、3伝票システムで会計の基礎を学習する。
使用教科書・副教材等	新総合実践「同時同業法を中心として」(実教出版) 新総合実践「同時同業法を中心として」演習ノート(実教出版) 教材用ビデオ(ビノネスマナーに関するもの)(実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)	考查範囲
第1学期	第1章 総合実践の総説 第2章 礼儀作法 第3章 接遇・マナー 第4章 電話の対応 第5章 文書の書き方	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 「総合実践」とは、すでに第1学年から学んできた商業科目の知識や技術と商業活動の実践的な業務を合理的・能率的に処理できるよう、商業活動の実践的な学習をとおして、身に付ける科目であることを理解します。 商業活動に必要な、取引相手とのコミュニケーションとしての礼儀について理解します。 学校生活と職場の生活の違いを理解します。 職業人として自覚しなければならない、原価主義・顧客意識・協力意識・安全意識・改善意識などを理解します。職場でのエチケットとして、服装と身だしなみ・人に与える印象・上司に対してのエチケットなどを理解します。 取引相手に対する接遇マナーを理解します。電話はお互いに先方の様子が目に映りませんので、つい失礼な言葉づかいをして、先方の感情を害する結果を招きがちになることを理解します。従って、平素からよい言葉づかいをする習慣を身に付けるよう理解します。 売買における取引の基本手続きを理解します。事務用通信文書の、形式や書き方の基本を理解します。文書主義の原則、企業における文書の役割、企業で用いられる文書、文書の帳票化、伝票の種類、押印として、普通の押印・割印・消印・訂正印・契印の役割の違いを理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業すべての科目の学習と関連します。 シラバス、学校要覧等を参考にします 	中間考查

【課題・提出物等】

- 1 「私たちの生活とコンピュータの関わり合いについて」のレポートを作成してください。
- 2 実習課題を授業終了時に提出します。
- 3 毎時、自己評価票に記入し提出します。

【第1学期の評価方法】

- ① 期末考査の成績、② 提出物、③ 授業態度、④ 出席状況、⑤ 検印の状況、⑥ 実践日誌の書き方などを観点別にABCで評価します。

第 2 学 期	第6章 取引と書式例	9 10 11 12	1 クラスを 2 つに分け、伊佐市場と湧水市場とし、両市場間の商取引を同時同業という形式で行い、商取引の基本を理解します。一連の商取引を理解します。特に経営という側面から、各自の意識高揚のもと、多くの利益を上げることの重要性を理解します。		中間 考 査	
	第7章 取引演習					
【課題・提出物】 1 実践日誌 2 業務進度表 3 教科書内の実習課題						
第 3 学 期	【第2学期の評価方法】 ① 期末考査の成績、② 提出物、③ 授業態度、④ 出席状況、⑤ 検印の状況、⑥ 実践日誌の書き方などを観点別にABCで評価します。					
	第7章 取引演習 模擬実践（自由取引） 決算（決算書類の作成）	1	第2学期で行った商取引と月末事務の資料に基づいて決算を行います総勘定元帳・売掛金元帳・買掛金元帳・商品有高帳・棚卸表・合計残高試算表・精算表・貸借対照表・損益計算書など。これらを作成し、商業の全体像を理解します。		学年 末 考 査	
【課題・提出物等】 1 反省文 2 実践日誌 3 業務進度表 4 作品 5 教科書内の実習課題						
【第3学期の評価方法】 ① 学年末考査の成績、② 提出物、③ 授業態度、④ 出席状況、⑤ 検印の状況、⑥ 実践日誌の書き方など定期考査の成績は 70% で、上記他の資料による評価を 30% の配分で行います。						
【年間の学習状況の評価方法】 次の 3 つの観点から評価した 1 学期の成績、2 学期の成績及び 3 学期の成績を統合し、年間の学習成績とします。						

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・ 身近な消費生活に興味・関心を持ち、常に新聞や雑誌、ニュースなどから情報を収集する習慣を身に付けることが、広い視野と社会の変化に柔軟に対応できる能力を作り上げることにつながります。 ・ 自分の意見を発表する、人の話を聞き要点を整理する、グループで協力し作業をするといったことは、コミュニケーションの方法を習得するのに役立ちます。授業では積極的に行動・参加する態度が大切です。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・ 商取引に対する心構えやマナーを、授業の中でしっかりと身に付けましょう。まず、あいさつや言葉使い、時間や約束を守るといった基本的なことから心がけることが大切です。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	記帳に必要な仕訳を理解している。帳簿作成に必要な個々の金額の計算ができる。決算に関する計算ができる。	定期考査、帳票、帳簿の提出伝票、集計表の提出。
思考・判断・表現	取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解している。個々の取引について、それぞれの特徴や手続き、記帳の方法を理解している。	定期考査、実践日誌、帳票、帳簿の提出。
主体的に学習に取り組む態度	学習内容に関心を持ち、自ら進んで学ぼうとしている。興味のあるところや理解の出来にくいところについて積極的に取り組んでいる。	授業態度、実践日誌等の提出。

3 担当者からのメッセージ

総合実践では、今まで学んできた商業科目を基礎に、企業で行われている売買取引を想定し、取引に必要な接遇や使用する帳票の起票、帳簿の記入、決算等を積極的に行うことにより、更に理解を深めていく科目です。各自が売買取引を行うので積極的に考えながら取引を行うこと。

教 科	商業	科目	ビジネス・コミュニケーション	単位数	3 単位
学 級	生活情報科 情報選択3年生	教科書 副教材	ビジネス・コミュニケーション ビジネス・コミュニケーション準拠問題集		
教科の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。				
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
評価の観点	知識・技能：知	思考・判断・表現：思	主体的に学習に取り組む態度：主		
趣 旨	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。		

第 1 学 期 学 習 指 導 計 画

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価基準(評価方法)	予定時数	実施時数
			知	思	主			
4	9章 ビジネスの会話	1. 国内での接客	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・国内で外国人を接客する際に必要となる英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング)		
5		2. 入国	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・外国に入国する際に必要な英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング)		
6		3. 商談と会議	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・商談や会議を行う際に必要な英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング)		
7		4. 帰国	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・ホテルのチェックアウトから空港での出国手続に至るまで帰国の際に必要な英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング)		
生徒の学習状況 の評価方法		定期考查の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。						

第 2 学 期 学 習 指 導 計 画

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価基準(評価方法)	予定時数	実施時数		
			知	思	主					
9	10章 ビジネス文書と電子メール	1. ビジネスレター Business Letters	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
10		2. 電子メールの利用 Using E-mail	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
11		3. 貿易取引 Trade Transaction	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
12		4. ビジネス文書 Business correspondence	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
生徒の学習状況の評価方法		定期考査の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。								

第 3 学 期 学 習 指 導 計 画

1	11章 ビジネスにおけるプレゼンテーション	1. プrezentationの構成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・ビジネスレターの構成要素と封筒の正しい書き方を理解し、ビジネスレターや封筒を適切に作成することができる。(行動観察)(問題演習)とビジネス文書でやり取りすることができる。(行動観察)(問題演習)		
		Structureof Prezentation						
2		2. プrezentationの作成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	・ビジネスにおけるプレゼンテーションの基本構成について理解する。また、プロジェクタやレザポインタ、オーディオ機器など、プレゼンテーションに必要なツールを利用する技術を身につける。(行動観察)		
		Making a Presentation						
生徒の学習状況の評価方法		定期考査の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。						

「観光ビジネス」	単位数	3 単位
	学科・学年	生活情報科 第3学年情報コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 企業の組織と仕事、職業人としての心構え、コミュニケーション、ビジネスマナー、情報化とオフィス実務、税の申告と納付を学習し、それらの知識や技術を活用してビジネスの諸活動を円滑におこない能力と姿勢を育みます。 2 電卓によってビジネス活動に関する計算を能率的に処理するための技術を習得させる。 3 電卓検定試験の合格を目指す。
使用教科書・副教材等	ビジネス実務（東京法令出版） 全商電卓実務検定模擬試験問題集1級（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等の関連など)	考査
一学期	1 企業の組織と人間関係 2 ビジネスマナー 3 ビジネスコミュニケーション 4 税の申告と納付 5 電卓検定の練習問題	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 企業の組織と意思決定との関係及び企業における意思決定の流れについて理解させる。 職業人としての望ましい心構えや良好な人間関係を構築することの必要性、職場における人間関係と接し方が仕事に及ぼす影響及びチームとして働くことの意義について理解させる。 挨拶するときの表情、受付案内、電話応対、座席配置等の応対に関するマナー及び慶事、弔事、贈答等の交際に関するマナー実習を通して習得させ、実践できるようにするとともに、ディベートを通して、自己の考えを効果的に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスをよく理解して、無理のない設定を立てましょう。 電卓検定1級合格へ向けて、こつこつ努力しましょう。 	中間考查 期末考查
【課題・提出物等】					
1 普通計算・ビジネス計算の入力（計時） 2 普通計算の解答、採点 3 ビジネス計算の解答、採点					
【第1学期の評価方法】					
1 チャイム以前の取り組み（電卓の準備）を含めた授業態度 2 定期考査の時の取得点数（普通計算・ビジネス計算） 3 小テスト（普通計算・ビジネス計算） 4 課題・実習などの提出状況及びその内容 5 検定へ向けた取り組み状況					

二 学 期	6 普通計算 7 ビジネス計算 (1) 割合の表し方 (2) 割合の計算 (3) 売買・損益に関する計算 (4) 利息に関する計算 (5) 外国貨幣と度量衡に関する計算	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> 普通計算の上達に取り組む。 ビジネス計算の学習に取り組む。 百分率・歩合などの違いと割合の表し方を理解させる。小数、分数、百分率それぞれで表すことができる。 代価、仕入原価、見込利益と定価、値引きの計算方法を理解する。 定価と売価の違いを理解させる。 利息及び元利合計の計算方法を理解せる。 度量衡を学び異種単位を換算できるようとする。 普通計算やビジネス計算を含む総合的な問題に取り組む。3級検定合格に向けて、速く正確に問題を解くことができるようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス計算電卓の解法。 速く正確に普通計算・ビジネス計算を解くことができるようにする。 	中間 考 查
	8 電卓検定に向けての学習	12		<ul style="list-style-type: none"> 時間を計測する。 時間内に終わるよう練習する。 	期末 考 查
	<p>【課題・提出物等】</p> <p>1 普通計算・ビジネス計算の入力（計時） 2 普通計算の解答、採点 3 ビジネス計算の解答、採点</p> <p>【2学期の評価方法】</p> <p>1 チャイム以前の取り組み（電卓の準備など）を含めた授業態度 2 期末考査の時の取得点数（普通計算・ビジネス計算） 3 小テスト（普通計算・ビジネス計算） 4 課題・実習などの提出状況及びその内容 5 検定へ向けた取り組み状況</p>				
三 学 期	9 電卓検定に向けての学習	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> 検定の合否の判定により、合格の生徒は上級の学習、不合格の生徒は復習学習に分かれます。 	<ul style="list-style-type: none"> 検定の合否によって取り組みが異なってきますが、何をすべきかしっかり判断します。 	学年 末 考 査
<p>【課題・提出物等】</p> <p>1 普通計算・ビジネス計算の入力（計時） 2 普通計算の解答、採点 3 ビジネス計算の解答、採点</p> <p>【三学期の評価方法】</p> <p>1 チャイム以前の取り組み（電卓の準備など）を含めた授業態度 2 期末考査の時の取得点数（普通計算・ビジネス計算） 3 小テスト（普通計算・ビジネス計算） 4 課題・実習などの提出状況及びその内容 5 検定へ向けた取り組み状況</p>					
<p>【年間の学習状況からの評価方法】</p> <p>学習状況は、後に示した3観点から評価した1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習成績として評価します。</p>					

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 普通計算においては、時間を計測して問題を解いてもらうこともあります。毎回集中力を高めて練習していくべき、確実にスピードがつきます。 ビジネス計算においては、解き方をしっかり説明します。解くための式と計算の途中過程までしっかり板書しましょう。類題を繰り返し解くことで実力がつきます。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> 普通計算で集中するべき場面、ビジネス計算の解説をしっかり聞く場面、生徒同士で教え合う場面、それぞれの場面でメリハリをつけて授業を受けましょう。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス計算の解法などの理解や電卓の様々な機能を使用することができるか。 電卓の機能を活用し、普通計算の解法などの理解がしっかりとできているか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 普通計算・ビジネス計算の文字や体裁が整っているか。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に取り組んだか。 授業への出席は常であったか。 提出物は、期限内に提出されていたか。

3 担当者からのメッセージ

- 始業タイムで入室はもちろんのこと、電卓の準備を済ませておく。
- 部屋に入る時は、上履き下履きの区別をしっかりつける。
- 授業時は、テキスト等、筆記用具は必ず持参する。
- タッチメソッドができるようになるには、まず手元を見ないことです。はじめは慣れることです。
- こつこつ努力しましょう。

「ソフトウェア活用」	単位数	2 単位
	学科・学年・学級	生活情報科 第 3 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 2 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
使用教科書・副教材等	ソフトウェア活用（実教出版） 全商情報処理検定模擬試験問題集3級（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項、他）	考查
第1学期	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 手続きの自動化 4節 データベースの構造 5節 SQL の操作	4 5 6 7	データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。 フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。 データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。 SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。	データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。 データベースの表やデータ構造など基本的な知識を理解し、必要に応じた表の正規化ができる知識や思考が身に付いている。 SQLの演習について自発的に取り組み、SQLの文法を理解し、データベースを適切に操作する技術が身に付いている。	中間 期 末 考 査
【課題・提出物等】 1 情報処理検定問題集 2 小テスト 3 情報処理検定に関する実技課題					
【第1学期の評価方法】 1 授業態度 2 定期考查 3 授業中の課題への取り組み状況及びその内容 4 検定へ向けた取り組み状況					

第2学期	5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 2節 販売管理ソフトウェアの活用 3節 給与計算ソフトウェアの活用	9 10 11 12	グループウェアを活用することの利点と、グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 販売管理ソフトウェアを活用することの利点と、販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 給与計算ソフトウェアを活用することの利点と、給与計算ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 販売管理ソフトウェアに関する知識、技術を身に付ける。 給与計算ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	中間 期 末 考 査
------	--	---------------------	---	--	------------------------

<p>【課題・提出物等】 1 情報処理検定問題集 2 小テスト 3 情報処理検定に関する実技課題</p> <p>【第2学期の評価方法】 1 授業態度 2 定期考査 3 授業中の課題への取り組み状況及びその内容 4 検定へ向けた取り組み状況</p>				
<p>第3学期</p>				
6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎 3節 情報システムの開発演習	1	情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。情報システムの開発の中でのプログラミングにおいて、コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについての基礎的な技術や、プログラミングに必要な関連する知識、技術を身に付ける。	一般的に利用されているシステム開発モデルについて、各手法の趣旨やメリット、デメリットを理解し、適切な手法を選択することができるか。 アルゴリズムを表現するための流れ図について、問題解決のためにその技術を利用することができるか。 アルゴリズムの各種基礎的な考え方を理解しているか。 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的にアルゴリズムを表現することができるか。	学年 末 考 査
	2	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用した簡易な情報システムの開発を通して、企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的にアルゴリズムを表現することができるか。	
<p>【課題・提出物等】 1 情報処理検定問題集 2 小テスト 3 情報処理検定に関する実技課題</p> <p>【第3学期の評価方法】 1 授業態度 2 定期考査 3 授業中の課題への取り組み状況及びその内容</p>				
<p>【年間の学習状況の評価方法】 年間の学習状況は、後に示した3つの観点から評価した1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習の成果として評価します。</p>				

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	基本的技能や知識を理解し習得するだけでなく、それらを活用し工夫しながら学習する態度が不可欠です。
---------------------	--

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。	・定期考査 ・小テスト ・練習問題集 ・課題
思考・判断・表現	・企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・実習課題 ・レポート ・練習問題集
主体的に学習に取り組む態度	・企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・配布物の整理

3 担当者からのメッセージ

現代社会において情報に関する知識・技能は生活に欠かせないものとなっています。主体的な態度をもって取り組みましょう。授業を受けるにあたっては 1 始業時間遵守 2 実習室内や情報機器を丁寧に扱い清潔に保つ 3 授業時間内は十分に努力するの3点を心がけましょう。